

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	03-02-02-03
事務事業名	青少年活動支援事業		備前市補助金等交付規則
事業開始年度	平成元年度～		
総合計画	大項目	基本目標	地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	生きがいのあるまちづくり
	小項目	施策	青少年教育（青少年の主体的活動の促進）
	問合せ先	担当課（室）	生涯学習課
	職・氏名	生涯学習係長 福山哲明	
	電話	0869-64-1841	

事業の実施	
対象（誰・何に対して）	備前市連合青年協議会、備前市FOS少年団連絡協議会（日生、吉永）
目的（何のために）	青年協議会及びFOS少年団に補助金を交付し、その活動を支援することにより、ボランティア活動や市の行う事業への協力など、地域社会への寄与を目的とする。
行政活動（どのような方法で）	補助金交付事務及び活動支援。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	少子化の中で現状は厳しいが、少年期の貴重なボランティア体験を行えるFOSの確保と、少年少女を対象とした自主行事を行える青年協議会員の確保を行っていく。

事業の実績						
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	備前・吉永青年団員数	人		34	32	28
	青年主催行事への市民参加者数	人		400	550	300
	日生・吉永FOS団員数	人		137	136	126
事業費	直接事業費		千円	708	708	708
	人件費			1,415	1,300	150
	事業費計			2,123	2,008	858
	国県支出金					
財源	受益者負担		千円			
	市一般財源			2,123	2,008	858
	必要人員		人	0.15	0.15	0.02
結果指標	結果指標名		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	活動行事参加者数		説明	連合青年協議会としての活動行事への市民参加者数		
	結果指標量	件		400	550	300
	対前年比	%		-	137.5%	54.5%
	活動コスト	円		1,034,500	977,000	402,000
	単位当たりコスト	円		2,586	1,776	1,340
結果指標	FOS少年団員数		説明	日生・吉永FOS少年団員数		
	結果指標量	件		137	137	126
	対前年比	%		-	100.0%	92.0%
	活動コスト	円		1,088,500	1,031,000	456,000
	単位当たりコスト	円		7,945	7,526	3,619

事業の成果			
成果指標名	FOS・青年会員数	式又は説明	青少年活動への参加青少年の人数
成果指標量	17年度	18年度	19年度
	171	168	154
対前年比		98.25%	91.67%
到達目標値	170	到達目標年度	平成21年度

事業の目的、対象、内容を考えているが目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A-E>	B
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である（法律・政省令）	課題認識	市における青少年活動の参加窓口として機能しており、FOSは少年期におけるボランティア参加、青年は少年少女を対象とした事業を企画運営、または市主催行事へのボランティア参加など貢献度は高いものがある。課題は両団体とも少子化と青年層におけるニーズの多様化などにより、会員数の増加が望みにくいものがある。
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
行政活動	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	課題認識	任意団体が合併・統合に苦慮する中、連合組織を醸成させ、自主運営することができるとは評価すべきであり、一概に人数で論じるべきではないと考える。FOSは単位団への関与が旧町時代と変わらず、地域公民館職員が担当している（H20からコスト統合）、19年度は補助金支出を一本化し、「備前市FOS少年団連絡協議会」を醸成させるまでにまとった。
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
市の関与	<input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	効率性評価<A-E>	課題認識
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	任意団体が合併・統合に苦慮する中、連合組織を醸成させ、自主運営することができるとは評価すべきであり、一概に人数で論じるべきではないと考える。FOSは単位団への関与が旧町時代と変わらず、地域公民館職員が担当している（H20からコスト統合）、19年度は補助金支出を一本化し、「備前市FOS少年団連絡協議会」を醸成させるまでにまとった。
	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
手	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	課題認識	任意団体が合併・統合に苦慮する中、連合組織を醸成させ、自主運営することができるとは評価すべきであり、一概に人数で論じるべきではないと考える。FOSは単位団への関与が旧町時代と変わらず、地域公民館職員が担当している（H20からコスト統合）、19年度は補助金支出を一本化し、「備前市FOS少年団連絡協議会」を醸成させるまでにまとった。
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている		
職	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	有効性評価<A-E>	課題認識
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである		
	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	吉永町青年団と備前市青年協議会の「備前市連合青年協議会」として、市を代表する青年組織とするも今ひとつ連合としての運営が単発行事になり、行事運営の強化と社会へのPRも不足。またFOS少年団も、連絡協議会が統合の前段階と見ると、19年度は補助金支出先一本化までに終わった。
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体が参加している		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	課題認識	吉永町青年団と備前市青年協議会の「備前市連合青年協議会」として、市を代表する青年組織とするも今ひとつ連合としての運営が単発行事になり、行事運営の強化と社会へのPRも不足。またFOS少年団も、連絡協議会が統合の前段階と見ると、19年度は補助金支出先一本化までに終わった。
	<input type="checkbox"/> 市民参画度		
	<input type="checkbox"/> 事業の実績が向上している		
	<input type="checkbox"/> 事業の成果が向上している		

平成20年度の状況		説明	青年協議会の3年目は連合組織充実を図りたいが、単位団の運営が2団共に厳しく、青年祭など行事を行いながら模索していくこととなる。FOSは補助金支出の一本化はできたが、団員の増加や備前地域内への組織拡大は望むべくもなく、もう少年団体は県内でも飽和状態であり苦慮するところである。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 500	結果指標量	140
成果指標量	160	結果指標量	140

総合評価		評価区分<A-E>	C
<p>県下に於いても特に青年団は減少・消滅する団（会）が多い中、備前市は活動を維持しているし、若者の代表として市政要員の対談ページを節った。また生涯学習フェスティバルや成人式協力など貢献度も高いが、市内の認知度はまだまだ低い。その予備軍としてのFOS少年団は、代表する組織への補助金支出とするなど、効率的な援助を行うようにはしたが、地域密着度が高い上、異なった組織形態での合併統合は難点がある。</p>			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	青年・FOS共に合併による統合を促進し、軌道に乗れば補助減を検討する	21年度	予算の削減

